

平成 31 年度・令和元年度 鶴岡市スポーツ推進審議会 会議録

- 日 時 令和 2 年 3 月 27 日（金）午後 3 時から 4 時 40 分まで
- 会 場 小真木原総合体育館大会議室
- 審議事項 議 事
令和 2 年度スポーツ団体への補助金交付について
報告並びに説明
（1）平成 31 年度・令和元年度スポーツ振興主要事業等の実施状況について
（2）令和 2 年度スポーツ振興重点事業について
- 出席委員 齋藤隆委員、平賀振一郎委員、齋藤範夫委員、百瀬克浩委員、丸山春男委員、山本益生委員、勝木正人委員、村田久忠委員、鎌田博子委員、鈴木金右エ門委員、佐藤しおり委員、阿部洋一委員、佐藤満子委員
- 欠席委員 加藤淳一委員、佐藤祐司委員
- 事務局 鶴岡市教育委員会 教育長 布川敦、教育部長 石塚健、スポーツ課長 齋藤匠、スポーツ課主幹 阿部三成、同課長補佐 伊藤晋、同スポーツ振興専門員 齋藤正人、学校教育課指導係専門員 佐藤友大
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴人の人数 2 人
- 審議経過 以下のとおり

1. 開会

伊藤(事務局) ただ今から平成 31 年度・令和元年度鶴岡市スポーツ推進審議会を開会します。

2. 委嘱状交付

—教育長から委嘱状を交付—

3. あいさつ

布川教育長 本日は、年度末のお忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。日ごろから、本市スポーツ振興施策にご指導、ご助言を頂いており、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、ただ今は、委嘱状を交付させていただきましたが、委員へのご就任を快くお引き受けいただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。本審議会は、例年、年度末に開催しており、本日の議事「スポーツ団体への補助金の交付」についてご意見をお聴きするにあたり、次年度予算を審議する市議会 3 月定例会終了後の開催となり、この時期となるものでございます。さて、ご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症対策に関連して、世界的、全国的に、通常とは異なる社会情勢になっております。本市におきましては、先ほども第 7 回目目の市の対策本部会議を開催し、対策本部の方針に基づき様々な措置を講じているところでありますが、先を見通すことが困難な状況が続いていると言えます。まだ山形県内の感染者はゼロですが、他都道府県を見ますと数県しか感染者がいないところがないということで、できればこのままゼロで通してほしいと思っています。全国的なスポーツ大会が軒並み中止になる中で、第 9 2 回選抜高等学校野球大会も中止になってしまいました。感染症の拡大を最小に抑えるため

の措置であり、やむを得ないこととは思いますが、昨年夏に続き出場が決まっていた鶴岡東高校の皆さんの気持ちを思いますと非常に残念だなと思っています。ネットニュースで見ますと、東北の3校が仙台で試合をする計画もしているということもありましたが、これも今後の状況によっては変わってくるのかなと思います。また、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が一年間延期となり、本市としましては、ドイツ・モルドバのホストタウンとして、今後のI O Cや組織委員会などの動向を注視しながら、開催に向けて粛々と準備を進めなければならないと思っていますところ。本日、委員の皆様には、「令和2年度スポーツ団体への補助金交付」についてご意見をお聴きするほか、「令和元年度スポーツ振興主要事業等の実施状況」、及び「令和2年度スポーツ振興重点施策」について報告・説明をさせていただき、その後、本市のスポーツ振興施策全般についてご意見を賜りたいと考えています。皆様には、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

4. 自己紹介

—各委員自己紹介—

5. 会長及び副会長の選出

伊藤（事務局） 鶴岡市スポーツ推進審議会条例第5条に、「審議会に会長及び副会長一人を置き、委員の互選によりこれを定める」とされています。もしよろしければ事務局からご提案を申し上げますがよろしいでしょうか。—異議なしの声—

それでは、事務局案を申し上げます。会長には、鶴岡市スポーツ少年団本部本部長の村田久忠委員、副会長には、NPO法人鶴岡市体育協会会長の山本益生委員をご提案いたします。いかがでしょうか。—異議なしの声—

それでは、会長は村田久忠委員、副会長は山本益生委員にお願いします。村田会長、山本副会長どうぞよろしく願いいたします。

6. 議事

伊藤（事務局） ここで本日の出欠について報告します。本日は、2名の委員から欠席の連絡をいただいています。名簿の1番、加藤淳一委員、3番の佐藤祐司委員です。本日は、委員15名中13名の出席で、過半数の出席を得ていますので、鶴岡市スポーツ推進審議会条例第6条第2項の規定により本審議会は成立していることを報告します。議長は、同条第1項に会長が議長となる旨が規定されていますので、村田会長は議長席へお願いします。議長からは、次第の6. 議事、7の報告並びに説明、8の意見交換までの進行をお願いします。

村田久忠会長 会長に選任されました村田と申します。円滑な議事運営に努めますのでよろしくお願い申し上げます。今日の予定ですが終了時刻午後4時30分頃を目途に進めさせていただきますのでご協力をお願いします。それでは議事に入ります。はじめに（1）令和2年度 スポーツ団体への補助金交付について議題とします。事務局から説明をお願いします。

齋藤（事務局） 「令和2年度スポーツ団体への補助金交付について」ご説明を申し上げます。3ページをご覧ください。令和2年度の補助金全体の額で4,417万4千円、前年比で117万8千円の増です。まず保健体育総務費です。全体で1,365万円、前年比で19万8千円の減です。No.1の鶴岡市体育協会活動支援補助金が560万円、前年比で25万円の減となっています。これはNPO法人鶴岡市体育協会の運営、体育功労表彰、指導者養成、ジュニアス

スポーツ振興等の事業に対する補助ですが、交付団体に対しまして事業内容等の精査を依頼しながら減額としたものです。鶴岡市スポーツ強化後援会補助金は700万円、前年比で9万8千円の減です。これは地元選手の競技力向上、上位大会出場選手の激励事業に対する補助ですが、これも同様に事業精査を依頼しながら減額としたものです。鶴岡市スポーツ大会等開催事業補助金は、本市で開催される東北大会以上の競技大会の運営を補助するものですが、来年度は大会一日当たり5万円の積算としており、5大会で75万円、前年比で35万円の増となっています。ただNo.4の南東北地区高等学校軟式野球大会は、予算編成の間に会場が他県に決まったとのことであり未執行となる見込みとなっています。また、No.7の東北総合体育大会は、卓球、クレー射撃、ウェイトリフティング、アーチェリーの4種目が本市を会場に行われる予定です。次の鶴岡市地域スポーツ振興補助金30万円は、じろで庄内実行委員会が実施するサイクリングイベントへ補助するもので、昨年につき2回目となるものです。自立開催を目指していただくという意味で前年比20万円の減としたところです。

続いて、健康・生涯スポーツ推進事業です。全体で2,229万7千円、前年比で102万6千円の増です。No.1の鶴岡市スポーツ少年団育成補助金は、鶴岡市スポーツ少年団本部に対し、408万6千円、前年比15万円の減です。これは、同本部の各単位団へ支出する活動育成補助金が、団数、団員数、指導者数の減少傾向によって、一団当たりの金額が年々上昇傾向にあったことから、この精査を依頼しながら減額としたものです。No.2の鶴岡市体育の日関連事業補助金は、子ども夢スポーツフェスティバル実行委員会に対し、160万円、前年比47万円の減です。これは、この2年間台風の影響で残念ながらイベントが中止となっており、準備段階で購入済の物品が流用可能であること、また事業内容を精査していくことも必要であることから減額としたものです。No.3の鶴岡市駅伝競走大会開催事業補助金は、同大会実行委員会に対し、66万5千円で前年同額、No.4の鶴岡市スポーツ・レクリエーション教室運営補助金は、鶴岡地区体育協会連絡協議会加盟団体等22団体に対し、1件当たり2万8千円を上限に交付するもので、61万6千円で前年同額です。No.5～No.10の鶴岡市地域体育協会等育成補助金は、鶴岡地区体育協会連絡協議会をはじめ、藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海の各地域体育協会の運営、加盟団体の育成、地域住民対象の健康生涯スポーツ行事の実施に関する事業に対して補助するもので、合計408万8千円、前年同額です。次にNo.11～15の鶴岡市地域スポーツ振興補助金は、特色ある地域スポーツ活動を推進し、広く市民のスポーツ振興及び活性化を図ることを目的に、事業を実施する各実行委員会に対して補助するもので、合計351万円、104万1千円の増です。この内、ジャパンソフトバレーボール鶴岡フェスティバル実行委員会の前年比15万9千円の減については、事業内容等の精査による減額です。No.13の鶴岡ノルディック・ウォーク実行委員会と、No.15の鶴岡里山あるき実行委員会の、前年比10万円の増については、これまで東京大学名誉教授の宮下充正先生から本市スポーツ振興にご指導・ご助言をいただくため、これに必要な旅費や謝礼等に見合う金額を委託料に計上していましたが、事務手続き改善のため委託料から各事業への補助金に組み替えをしたことによる増です。次にNo.14の世界バドU15推進協議会の100万円の増については、一般財団法人地域活性化センター助成金を財源とする純増です。なお、この補助金の他に、市負担金400万円を計上しており、合計500万円を支出予定です。ただ、オリンピックの延期が決定したこ

とに伴い、この事業も延期が決定されていますので今後の検討が必要となっています。No.16の鶴岡市登山事業補助金15万円、No.17の鶴岡市公益財団法人藤島文化スポーツ事業団補助金521万円は前年同額です。No.18のてくてくウォーク推進協議会補助金131万2千円、26万5千円の増については、これまでの14団体へ補助していた「てくてく健康里山あるき実行委員会補助金」を、新たに設立する同協議会へ集約し、その他ウォーキング関連予算の報償費と印刷製本費もこの補助金に組み込み、本市のウォーキング普及事業を総合的に推進するための補助金組み替えによる新規補助金となります。事業内容はこれまでの事業継続がベースとなりますが、この協議会で新たな事業展開を検討していくこととなります。No.19のフィットネスダンスフェスティバル補助金8万円と、No.20のテニスクリニック補助金26万円は、これも新規補助金となりますが、先ほども申し上げました宮下先生関連の継続事業であり、委託料から補助金へ組み替えをしたものです。

続いて、総合型地域スポーツクラブ活動支援事業です。全体で362万7千円、前年比で15万円の減です。スポーツクラブを通じて市民が自主的なスポーツの振興を図り、活力ある地域づくりを推進していくことを目的として、5地域のスポーツクラブに対して補助するものです。減額の15万円については、あさひスポーツクラブですが、スポーツ振興くじ助成いわゆる toto 助成終了後の急激な減額を緩和するための経過措置として上乘せされていた部分を見直したことに伴う減額です。

続いて、オリンピック・パラリンピック推進事業補助金は、鶴岡ホストタウン推進委員会に対して460万円、前年比50万円の増です。これは、ホストタウン相手国のドイツ・モルドバからの合宿の受け入れや交流、パブリックビューイング等の事業を補助するものです。オリンピック・パラリンピック関連事業予算としては、この補助金及び聖火リレーや応援ツアー等に係る予算を合わせ、合計1,067万5千円を計上しています。ただ、オリンピック延期の決定に伴い、今後の事業の組み立てを検討していかなければならない状況となっています。

村田久忠会長 ご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

丸山春男委員 健康・生涯スポーツ推進事業のNo.2子ども夢スポーツフェスティバル実行委員会補助金が減額して160万円ということですが、2年連続で中止になり、今年度は事前に台風が来るということで躊躇なく中止されたかと思います。この事業は、鶴岡地区体協さんや、鶴岡高専の生徒さんとか、大きい団体が協力してくれている魅力ある大会ですが、各団体さんからどのような反響があったか教えてください。

齋藤（事務局） 反響という形ではないですが、状況が状況であったこともありまして、やむなしというところの声は聴いております。

丸山春男委員 2年連続というのが引っ掛かっていまして、開催時期について今後議論になるのだと思いますが、スポーツ課としては開催時期の話はこの段階では出ていないのでしょうか。

齋藤（事務局） この2年間残念ながら台風の影響で開催できなかったわけですが、3年前までは中止したことの無いイベントです。ほとんどが天気に恵まれて開催してきたものが、ここ2年間は台風の影響で開催できなかったというものです。時期的には体育の日関連事業補助金ということもあり、体育の日に開催するイベントということを中心に考えています。ただ、近年の状況を考えますと、雨天でも対応できる準備をしなければいけないと考えています。

齋藤隆委員 No.1 1からの地域スポーツ振興補助金の中で、ジャパンソフトバレーボールは、各市町に先駆けて実施した生涯スポーツ振興で、非常に歴史があると思いますが第何回になるのでしょうか。また、宮下先生の事業も非常に歴史があって県下に誇れるものだと思います。そういう意味では、字数の関係もあると思いますが、第何回と入れた方が重みが出る気がします。

齋藤（事務局） ジャパンソフトバレーボールにつきましては第26回です。この第何回の記載は、予算項目をそのまま転載していることもあり割愛させていただいていたところですが、その他の表に出すものには大体記載してありますのでご理解いただければと思います。

丸山春男委員 保健体育総務費のNo.4 高等学校軟式野球大会が他県に決まったと先ほど説明がありました。高校生の硬式はよく見る機会がありますが軟式の試合はかなり稀ですから、たぶん資料を作る直前に変わったのだと思いますが急に変わった理由がわかれば教えてください。また、健康・生涯スポーツ全体の中で、国民健康保険特別会計は毎年同じくらしい予算なのですか。この二点についてお願いします。

齋藤（事務局） 一点目の保健体育総務費のNo.4 南東北地区高等学校軟式野球大会については、予算要求から予算査定の時点で令和3年度に鶴岡で開催予定であると鶴岡野球連盟さんから伺っています。二点目の健康・生涯スポーツ推進事業のうち、国民健康保険特別会計予算の総額は、先ほどの通り様々組み替えをしていますが前年同額となっています。

齋藤課長（事務局） No.1 3のノルディック・ウォークは来年第22回となります。

村田久忠会長 他になれば予算が決まったの説明ということですが、一応議事ということなのでご承認いただける方の拍手をお願いします。一同拍手。それでは承認とします。

7. 報告並びに説明（引き続き8. 意見交換）

村田久忠会長 （1）平成31年度・令和元年度スポーツ振興主要事業等の実施状況について並びに（2）令和2年度スポーツ振興重点施策について事務局の説明をお願いします。

齋藤課長（事務局） 平成31年度・令和元年度スポーツ振興主要事業等の実施状況について説明します。資料4ページから成果・課題を中心に説明します。鶴岡市では、3つの大きな柱として、「生涯スポーツの推進」「競技スポーツの推進」「スポーツ施設環境の充実・整備」に取り組んでいます。1. 誰もが楽しめる生涯スポーツの推進では、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進ということで、日常的にスポーツに取り組んでいただくきっかけづくりとしてチャレンジデーに取り組んでいます。昨年5月29日に鶴岡市の参加率52.6%で対戦相手の取手市から勝利し、主催団体の笹川スポーツ財団から金メダルを頂戴しています。⑤てくてく健康里山あるき等ウォーキング事業の充実では、議事1で説明申し上げたとおり、東京大学名誉教授の宮下充正先生からご指導をいただきながら、年間で全22コースを設定し様々なウォーキング事業に取り組んでいます。50万歩・100万歩への挑戦は、日常的に歩いていただく取り組みとして行っています。⑨障害者スポーツの普及促進は、パラリンピックの競技種目であるボッチャの普及を通して、様々な方がスポーツに取り組めるきっかけづくりとして、体験会等を通して多くの方に参加していただきたいということで行っています。おかげさまでボッチャ用具の貸し出しが前年度20件に比べ64件と大幅に伸びています。5ページに移りまして、子どものスポーツ機会の充実は、鶴岡市スポーツ少年団活動の支援等に取り組んでいます。子どもの年代は身体能力が著しく発達する時期ということもありますのでスポーツに親し

んでいただきたいということで取り組んでいます。先ほどもありましたが、子ども夢スポーツフェスティバルは残念ながら中止となりましたが、アクティブチャイルドプログラムを子どもたちが遊びをとおして運動に親しむきっかけづくりとして予定をしていました。市民が主体的に参画する地域スポーツ環境の整備は、総合型地域スポーツクラブの活動・自立支援ということで、市内9つの総合型地域スポーツクラブの活動支援を行っています。次のページに移りまして、地域の方々からスポーツに親しんでいただくためスポーツ指導者の養成等にも取り組んでいます。2. 感動と活力を与える競技スポーツの推進では、競技力向上に向けた人材養成ということで、テニスクリニックなどの教室を行っています。7ページに移りまして、3. 誰もが安全安心に利用できるスポーツ施設の環境整備では、スポーツ施設の有効活用と整備推進に取り組んでいます。既存の体育施設機能の維持向上、それから屋外多目的運動施設を、大山工業団地内鶴岡TDKの南側の土地に用地を確保しており、間もなく4月くらいから着工したいということで今準備を進めています。完成は来年度の降雪期前ということで予定しています。続いて、スポーツ施設の管理運営の充実ですが、指定管理者制度の導入による適正かつ効率的な管理運営ということで、市内体育施設34施設を鶴岡市体育協会、市民プールを鶴岡水泳育成協会へ指定管理ということで行っています。その他にも各地域にあります学校施設を開放し、地域の方々に運動に親しんでいただけるような場としています。8ページをご覧ください。地域に活力を生み出すスポーツ環境の充実では、地域で行っている様々な体育行事の支援、その他鶴岡市民総体の開催支援などを行っています。(2) スポーツによる地域づくりと活性化では、②日本ウォーキング協会公認みんなで歩こう！里山あるき、ジャパンソフトバレーボール鶴岡フェスティバル、国際ノルディック・ウォークin鶴岡、これらは県内外から多くのご参加いただいております、いわゆるスポーツツーリズムとなっています。9ページをご覧ください。残念ながら開催延期となりますが、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けたホストタウン事業ということで取り組んでおりました。本市は、ドイツ・モルドバのホストタウンになっており、両国の選手が大会に出場する前の事前合宿を予定しており、それらの方々都合する環境づくりと事前検証も含め、モルドバのアーチェリー選手、柔道選手等の合宿を行っています。その他ドイツから今後の交流促進も予定し、コーディネーターから来ていただいてアドバイスをいただいております。10ページをご覧ください。世界バドミントンU15は、昨年6月29・30日で開催し、シングルス男女各16人で行い、来場者が2日間で延べ4,500人でした。本市では初の国際大会で多くの方から観覧いただいております。11ページには、生涯スポーツのそれぞれの開催状況、里山あるきの実施状況を掲載しています。22番の雪上かんじきウォークは、先日開催されたため参加者数を記載していません。参加者数が30名で、それに伴い合計が1,316名です。追記をお願いします。12ページはスポーツ施設の環境整備で実施した施設修繕等の状況を記載しています。下の方に本市では体育施設にトレーニングルームを設置していますが、その利用状況を記載しています。健康意識の高まり等もあり、対前年比で増えている状況です。

令和2年度鶴岡市教育委員会スポーツ振興重点施策に移ります。最初に4の番号がありますが他の資料で使っている番号ですので消していただければと思います。本市では、先ほど申し上げた通り、大きな3つの柱になっていますが、基本的な部分としては変わっていません。基

本施策は昨年度と同様となっています。14ページをお開きください。変更の大きな部分としては、本来開催される予定だったオリンピック・パラリンピックの部分をまとめて掲載しています。残念ながら延期となりましたので、15ページの予定も今後繰り延べされると考えています。14ページの(4)の②、ケの世界バドミントンU15は、変わらしてU16という記載になりますが、先ほどの説明の通りオリンピックに準じるということで、開催延期を予定しています。16ページですが、本市では6月8日に通過予定だった聖火リレーも残念ながら延期となりましたが、当初の通過予定コースを掲載しています。17ページ、先ほどお話ししました大山工業団地内に整備を進めている鶴岡市屋内多目的運動施設の概要です。天候に左右されることなく活動できる施設ということで準備を進めています。1階アリーナは全面人工芝、広さ48m×75m、フットサル2面、テニスコート4面、ゲートボール8面の広さとなり、完成すると県内随一の広さになります。基本的に屋外で活動する競技の方々が使えるものと考えていますので、申し上げた競技に限らず使っていただけるものと考えています。例えば子どもたちの運動会等も開催できると考えています。アリーナ2階の外周部分は、一周220mのウォーキングコースを設置し、誰でも気軽に運動していただける施設ということで考えています。18ページには国際バドミントンU16大会概要を掲載していますが、先ほどの通り一年間延期を予定しています。説明は以上です。

村田久忠会長 ご質問ご意見等ありましたらお願いします。オリンピックが1年延期で、新型コロナがどうなるかというところで、色々変わってくることもあるだろうと思います。コロナ騒ぎが1か月になり、子どもたちも学校が休みで活動できない状況ですが、鶴岡は23日から再開ということで進めています。質問が無ければ次の意見交換ということもありますので、ご意見をいただければありがたいと思います。

齋藤隆委員 5ページの子ども夢スポーツフェスティバルin鶴岡のアクティブチャイルドプログラムに非常に興味があります。初回できなかったということですが、後期改定計画にも紹介してあります。これはどなたがご指導になる予定だったのでしょうか。

齋藤課長(事務局) 講師は東京学芸大学の佐藤先生という方ですが、私たちが子どもころにやっていたような遊びを通して、子どもが身近なところで体を動かすことを学んでいただきたいというプログラムとなっています。

村田久忠会長 スポーツ少年団の登録も小学生以上だったのが昨年からは満3歳以上となり、小さいころから運動に親しむ環境づくりということで、ただ3歳と小学生では一緒に活動できないわけですが、子どもたちが楽しく遊べるアクティブチャイルドプログラム(略称ACP)の指導者養成もしています。その普及も兼ねて去年やろうとしたものです。これからはレクリエーションと同じような形で取り組めればと思います。

平賀振一郎委員 19ページの組織図で、私は小学校体育連盟として来ているわけですが、どこにも記載がないようなので、確かにスポーツ振興をしている団体だと思っているのですが、ということがまず一点と、中体連、高体連が体育協会のところから枝分かれしていますが、そういう質の団体なのかという確認です。この二つをお願いします。

齋藤課長(事務局) 記載がなかった部分については大変申し訳ございません。高体連、中体連は、鶴岡市体育協会の加盟団体として記載していたところですが、小体連の皆様からはスポー

ツ振興にご協力をいただいていますので記載するようにします。

齋藤範夫委員 20ページに来年度の行事が書いてありますが、5月11日に中学校駅伝競走大会が予定されています。最初は延期しようと思ったのですが各学校の行事のため都合がつかず、このままの日程でやる予定ですが、来月頭に開催するかどうかを決める予定です。今のところは、中止にして6月の田川地区中学校総合体育大会が終わったあとに、箱根駅伝のような形の予選会というか記録会といった形で県大会への代表校を決める方向も考えています。

百瀬克浩委員 10ページ、14ページにあるトップスポーツと地域スポーツの連携・協働の推進という中に、指導者の活用という取り組みがありますが、スポーツ振興を図る上でやはり指導者の存在が非常に大きい部分だと思います。また、学校体育で担ってきた部活動自体も大分変容してきている中で、指導者自体が求められ、スポーツ振興が図られていく状況になっていると思います。どの市町村も指導者の確保が一つの大きな課題になっていると聞いていますし、その辺の情報を得る上で、指導者の情報、指導者バンクといいますが、指導者の登録制度とか、現状をお聞かせいただければありがたいです。もう一つは、人材の好循環というところで、地元で育ったアスリートが帰ってきて、それによってまた次世代の子どもたちが育っていくシステムを作っていくときに、なかなか子どもの定着回帰が進まない現状の中で、指導者として、選手としてもそうですが、地元に戻ってこられるような企業とのマッチングも含めた取り組みがこれから非常に求められていく感じがするので現状をお聞かせ願えればありがたいです。

齋藤（事務局） 山形県においては、県出身の大学生の選手に対し、進路希望調査や県内企業の就職情報の提供、企業とのマッチングを図る取り組み等を行っていると同っています。市としても県の取り組みと足並みをそろえられるところを考えていければと思っています。

村田久忠会長 指導者の人材バンクは、生涯スポーツの面では、県の遊学館と広域スポーツセンターの両方で人材バンクのようなものを持っていると思います。それを活用しているというのが現状で鶴岡市独自にはない状況です。競技スポーツでは、必要なときは競技団体をお願いする形だと思いますが、実際のところ競技団体も誰が資格を持っているかは持っていないと思います。指導者は、スポーツ少年団も令和2年度に指導者制度が変わり、日本スポーツ協会の公認指導者制度に特化され、資格を持った指導者が指導に当たらなくてはならないというこれからの方向は間違いのないと思います。部活動もそういう形で進んでいくと思われれます。

山本益生副会長 日本スポーツ団体としてはあるけれども、今競技団体が主体としてあるわけです。そのマッチングをどうするかという話が地方では議論されている。ただ、競技団体主体にした方がそれぞれの関係でリスペクトも含めて、先ほど言った中体連、高体連も含めて、指導者制度の中でどういう取り扱いをするかというのは、文科省を含めて今検討している最中だそうです。それは今まで競技だけの指導者だった。そうではなくて色々な面での、コンプライアンスも含めて、リスペクトと言ったけれども、それらを含めて複合的な話をしていかなないと指導者の育成は難しい。今まで日体協も全体でやってきたけれども、相互の交流でなかなか難しいものがある。その辺の制度を今議論している最中だと伺っています。できるだけ中体連の指導者を含めて、おそらくその辺の中で整理されるだろうと我々としては予測しています。

村田久忠会長 高校部活動は競技レベルからしても専門の人がいないとレベルアップしなくなって、どうしても競技団体との連携がないと難しいのかなと思います。先生方だけでは追いつ

つかない状況なのかなと思います。これからのことは状況を見ながらということになります。

勝木正人委員 百瀬先生が言った通り、学校を出て地元に戻ってくる人が少ないと、自治会長もやっているのでも今すごく考えます。やはり私たちは、私たちというのは私自身も含めて、追いつく教育をしてきたのではないかと。勉強して良い学校に入って、良い会社に行けという指導をしていたのではないかと。その辺を見直さないと、良い思いを彼らにさせないと戻ってこないのではないかと。色々な面でそれが壁のような気がします。

村田久忠会長 今日民間の二人の委員が欠席なので、事情を聞ければ良かったのですが、やはり地元の状況も聞いて協力を求めていくしかないのかなと思いますし、一つの課題だと思います。

鎌田博子委員 鶴岡の大きな事業となっているウォーキングですが、本当に素晴らしい全国に誇れる事業だと思います。中には参加者の固定化しているとか、参加したいけど付いて行くのが容易でないスピードだということですか。本当なら初心者も楽しく参加できる事業が望ましいと思いますが、その辺を少し考えていただきたいというのが一つです。それから50万歩のノートは、今日聞いたら100万歩も結構な人数の方がトライしていて素晴らしいことだと感じました。私も見習わなければいけないなと思いました。それから大山に屋内多目的運動施設が整備されますが、日常的に子どもたちが活動している現状のテニスコートは、冬期間が使用できない期間で、秋口からの天気の悪い日は活動できない現状です。はたして大山にできたときにそこを提供できるのかどうか。しかも保護者の送り迎えがないと行けない距離ですから相当遠くなります。その辺を考えると管理棟も相当老朽化していると思いますし、コートも頑張って使われてきたと思いますけども、将来的にやっぱりこの公園の中に立派なテニスコートを、ちゃんと屋根のかかった、冷暖房はいらなと思います。そういう設備を検討していただきたいと将来的に思います。ぜひお願いしたいと思います。それからもう一つ、いこいの村庄内が閉鎖となり、あの自然のスペースがとても魅力的だったのですが、その活用をなんとか市で、アスレチックも利用しながら、お花も咲いて、家族で、友達同士で、高齢者の方が散歩できる施設があったら素晴らしいと思いますが、そういう方向性を考えているのかどうか、少子化でなかなかそこまでは大変ということかもしれませんが、やはり子どもは伸び伸びと跳んだり跳ねたり木に登ったり、日常的な遊びの中のものがないと体力づくりになりませんし、精神的にも肉体的だけでなく育っていかないと。保育園幼稚園も園のバスを使って楽しめる場所になると。早急には難しい問題だと思いますが、できれば野外の楽しい施設が近くにあるといいなと思います。ぜひ子どもたちに素晴らしい夢を提供できるような施設になってほしいな。いこいの村が難しければ金峯もありますし、あそこは施設もありますので、野外活動ができるような施設をよろしくお願いしたいと思います。

鈴木金右エ門委員 5ページのスポーツクラブ関連で、市内9クラブの中で5クラブに補助金の支援いただいているわけですが、各クラブ設立年は違うにしても、設立から5年間はt o t oの補助をいただいて、その間に自立しなさいということでスタートしたはずなのですが、あつみスポーツクラブもそのとおりなかなか自立できない現状です。当初行政主導で立ち上げたスポーツクラブで、温海の具体的な例を言うと、当初会員150人を5年以内に200人にすれば自立できるみたいな話だったのですが、現実的にこれだけ人口減少の中で、子どもたちは部活動をやっている、子ども自体が減っている現状で、200人の目標が実は今100人しかい

ない状況です。これから温海の中で倍増の200人というのはとても難しい現状で、令和2年度も引き続き支援いただいで大変感謝しているところですが、ここに課題があるとおり、会員増を図るなど安定した運営というのは、設立当時から今も課題になっているものですから、はたしていつまでもこの9クラブが運営できるのか自体も今後は課題になってくると思いますので、行政は金を出せばいいみたいな感じではなくて、各クラブの課題がそれぞれ違うにしても、総合型地域スポーツクラブの将来がどうなっていくのか、クラブと一緒に行政の方も検討していただければなと思っていますので、ぜひその辺相談に乗っていただければと思っています。先日もスポーツクラブの情報交換会で、自主財源比率50%くらいの団体はかなりある状況なので、その辺も行政から認識いただいで、お金の面、人材の面、様々な課題に対して指導いただければと思います。あともう一点、実はグラウンドゴルフ協会から聞かれたのですが、楡引に新しいグラウンドゴルフ場ができて、最初のころは楽しんでいたそうなのですが、最近では草ぼうぼうだとか、管理がどこかわかりませんが、楡引より庄内空港の方がいいみたいな話が聞こえるので、折角の施設ですので活用できる方策をお願いしたいという要望です。

佐藤しおり委員 実施できなかったアクティブチャイルドプログラムは、とても楽しそうに期待していたので残念だと思います。子どもたちはどんどん成長するので機会を逸してしまうことにもなるので、天候によらず実施できるようなことと、あとは子どもだけでなく子育て世代の20代30代は、健康課の調査でもスポーツクラブの登録人数でも一番少ない世代なので、子どもに運動させようとする親を育てる意味でも、スポーツ少年団も3歳からの登録になったそうですが3歳の子どものみで来ることはできないので、親子で運動に親しめるプログラムと、競技種目を決める前の子どもたちを取り込める体力づくりのようなプログラムが、全市的にサポートできることがあればと思いました。あと、私は赤川まちづくりの委員もしていて、赤川に親水空間を設けながら街と川がつながる新しくまちづくりをしようということで、今も野球場とかサッカー場があるところですが、その辺も利用しながら子どもたちの運動や自然に親しむ機会、運動不足の大人もスポーツができる環境ができたらと思っています。

阿部洋一委員 大山の屋内多目的運動施設ですが、利用する場合の手続き、申込方法とか、これからののかもかもしれませんが、もしわかっていけばご説明いただければと思います。

齋藤課長(事務局) 屋内多目的運動施設は、市の施設として設置条例等の手続きを踏まなければなりませんし、そのためには運用の部分を決めていかなければならないということで、今素案を検討しているところです。主に利用される競技団体の皆様と相談させていただきながら、運用部分を決めていきたいと考えています。

佐藤満子委員 14ページの令和2年度重要事業の2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたホストタウン事業の推進とレガシーの創出について、鶴岡市が共生社会ホストタウンに登録認定され、この一年間ホストタウンでボッチャ競技というスポーツを通して交流を得たことで障害者への理解をしていただいたことがとてもうれしく思っています。一つは南部児童館でボッチャの指導をし、小学生低学年の子どもたちと交流ができたこと、それから鶴岡市の企画で高校生の皆さんとボッチャ競技の交流ができたこと、それからこれは画期的と思うのですが、今までは身体、知的、精神という障害の特性によって、なかなかお互いの理解が容易でないのですが、この度、鶴岡市長杯の第1回ボッチャ大会を、障害特性の壁をぬ

けて120人くらい集まり開催できたこと、やはり障害を理解してもらおうということは、こういうスポーツ・文化を通して一緒に行動することで、わからないことがわかっていただけるのではないかと肌で感じたところです。ですから一年延期ですが、この機運醸成で障害者機会が進むことが、末永く息長く事業を共に協力しながらやっていきたいと思っておりますので今後ともよろしく申し上げます。

阿部（事務局） ありがとうございます。パラリンピックのボッチャ競技ということでドイツのザールラント州の選抜チーム、車いすの選手4名ほどを呼んだのが一昨年の3月で、そこからドイツとの交流がホストタウンとして始まっています。藤島体育館でやったその際も鶴身連の皆様から色々お手伝いいただき、多くの参加をいただきながら進めてまいりました。ボッチャは正直我々も初めて体験する種目でありましたが、やってみるとパラリンピックの正式種目でありながら健常者も一緒に取り組めるもので、かえってずっとやっているパラ選手の方が上手だということもあるものですから、お互いを高め合うには非常に良い種目であるなという印象を持っています。機会があるたびにボッチャを普及したいと我々も考えていたものから、イベントのたびに鶴身連の皆様からご協力いただきながら進めてまいったところです。一年延期にはなりましたが、もう一年普及を図っていけるとプラスに考え、ボッチャ競技を通した共生社会の実現に向けた取り組みを推進したいと考えていますのでよろしく申し上げます。

齋藤隆委員 本市はオリンピック選手の可能性が水泳の小関、アーチェリーの中村、今のところ二人います。これは他市町村であまりないことで、ただホストタウンでレガシーということでなく、オリンピック選手を輩出していく、本市出身選手、オリンピックを支援していくという意気込みが弱い感じがして、こういう文言を入れられるのはたぶん鶴岡市だけだと思うので入れていいのではないかと思います。それから市民のスポーツ意識を何年かに一回調査すると聞いていますが、今度はいつ予定されているのでしょうか。少子化高齢化でどんどん変わってもう10年は一昔になるので、何年かに一回は市民のスポーツに関する調査をしてそれを生かしていく必要があると思います。

齋藤（事務局） 鶴岡市スポーツ推進計画後期改定計画は平成31年度から5年間の計画になっており、令和5年度に新たな計画を策定することになります。その前段として市民の意識調査が必要と考えており、令和4年度に調査を実施したいと考えています。

阿部（事務局） 一点目のオリンピック選手の盛り上げ方については、参考にさせていただきたいと思っております。アーチェリーの中村選手は、先週第二次選考会を通過し、いよいよ4月11、12日の最終選考会で5人のうち3人がオリンピック代表ということで予定していましたが、今日の全日本アーチェリー連盟の情報によると、コロナウイルスの関係で、選手を守るという観点と、オリンピックが一年先延ばしになったことを鑑みて、最終選考会が先送りになったという情報が入っています。今日の情報なので明日の新聞に出るかと思いますが、いずれにしても、5人から3人になる形式は変わらないと思っておりますが、正式には4月12日の全日本アーチェリー連盟の理事会で決まるという情報も入っていますので、最終選考会が年内か来年かわからないですが、中村選手にはぜひ通過していただき、今鶴岡に在住していますので鶴岡市民を代表してのオリンピック選手になっていただければと思います。あと小関選手は、日本水泳連盟の日本選手権が4月2日から7日まで開催予定でしたが、それをオリンピック予選にす

る当初の計画だったのですが、やはり昨今の事情で日本選手権自体が中止ということのようで、選考会がいつになるか今の時点でわかりませんので、開催する際はぜひリオに続く2大会連続出場をすごく期待していますので、皆様方もぜひご声援をいただければと思います。

鈴木金右エ門委員 てくてく健康里山あるきはそれぞれ実行委員会の事業ですけど、中止、延期の判断は実行委員会ですのかスポーツ課ですのか教えていただければと思います。

齋藤課長（事務局） てくてく健康里山あるきは、主体的に事務局をスポーツ課が担っていることでもありますので、基本的に実行委員会判断とはなりますが、こちらの方である程度、今言われている密集、密接等3条件が解消されるようであれば基本的にできるものと考えています。県内で感染者が出た場合は取り扱いが変わってくると思いますが、現時点では屋外の活動の中止は考えなくてよいかと思っています。

丸山春男委員 スポーツクラブの在り方とか、関連して中学校の部活の絡みについては、一週間前に教育委員会の担当者から説明を受けて大体理解できたのですが、スポーツ少年団の運営が容易でないと役員から聞いて心配しています。登録年齢が下がったと聞きましたが、合併していくしかないのではないかという話もあったものですから、その辺の実情を、議長さんには恐縮ですが、スポーツ課でも結構ですし、簡単に現状を教えてもらえるとありがたいです。

村田久忠会長 少子化という観点があるわけですが、チームで行う競技に関しては、今まで学校単位でやってきたものがなかなかできないというところで、簡単に言えば豊浦に3つの小学校それぞれにスポーツ少年団がありますが、やはりできないものですから中学校区で一つになっているとか、全国的にそういうふうになってきています。これからの状況はわかりませんが、指導者のことや送り迎えのことなど様々な課題がでてくるので、そのことも考えながら相談があれば相談に乗りながら上手くやっていけるところを話し合っていきたいと思っています。当然種目にもよりますが、やはり人数が少なくてというところで、剣道は振武会という団体でやっていてスポーツ少年団ができてから分散したわけです。それがまた戻っていく形になるという気がします。ですから武道館のような施設があるところはそういう形でできていくのでしょうか、他の団体がどうかはこれから見ていかないとわからないかなと思っています。大体よろしいですか。色々な意見が出たかと思っていますので、これからのスポーツ振興に生かしていただければと思います。予定した時刻にもなりましたので、協議、意見交換については以上で終わりたいと思います。進行にご協力ありがとうございました。

9. その他、10. 閉会

伊藤（事務局） 村田会長、議事進行ありがとうございました。次第の9「その他」ですが委員の皆様から何かございますか。無いようであれば、これをもちまして平成31年度・令和元年度鶴岡市スポーツ推進審議会を閉会します。本日は誠にありがとうございました。